

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり水島（児発・非重心）		
○保護者評価実施期間	R7年1月14日		～ R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	R7年1月14日		～ R7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児やその家族について、職員間で情報や支援を共有していること。	日々、個別支援計画についての話し合いの時間を設けている。 各職員が日々の様子を記録している。	利用児の様子だけでなく、より個別支援計画に沿った内容で話し合いを進められるよう意識している。
2	それぞれの場面で家庭や集団生活に般化できるよう支援を組み立てていること。	多職種がそれぞれの専門性を活かしてお子さんの強みや芽生えに働きかけている。 家庭や関係機関に引き継ぎや訪問を通して共有を図っている。	今後も積極的に所属園等の関係機関と情報を共有し、支援の方向性を統一していきたい。
3	保護者理解や支援に力を入れていること。	引き継ぎ・懇談時間・就学懇談を設けている。 家族見学週間の設定。 ペアトレ・就学勉強会等の実施。 サポートブックの作成（保護者）。	保護者のニーズに沿って保護者支援を展開していく。親子参加の療育時間を設けることも検討。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ハード面（環境・構造上）の課題。	施設の老朽化。	療育室の全カーテン・レールを付け替え、プライバシー面・室内の寒暖差対策がとれた。今後も優先順位を立てて修繕に努めたい。
2	きょうだい児同士の交流の機会。	ニーズに合わせてきょうだい児を終了児課外活動や公益活動（学習支援等）に案内しているが、利用児きょうだい全体への発信ではない。	キッズボランティアやきょうだい児を招く機会を検討し、児同士のやりとりの場を設ける。
3	保護者同士の交流の場。	勉強会等の実施が平日日中に実施されることが多く、働く保護者の参加が限られた。	オンラインの活用。 勉強会や茶話会、ペアトレの参加案内を保護者希望も聞いた上で設定したい。